

- 問1 日本の茶の生産量に関する統計において、1位の静岡県（約38%）に次いで、全国の約3割（約31%）を占める鹿児島県では、ある特殊な地形を利用して茶の栽培が盛んに行われています。この地形の名称と農業上の特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2020年 広島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. カルデラと呼ばれ、火山が噴火してくぼんだ地形を利用して大規模な稲作が行われている。 | 2. 三角州と呼ばれ、河口付近に砂泥が積もった平坦な土地を利用して米の二期作が行われている。 | 3. 扇状地と呼ばれ、川が山地から平地に出る場所に堆積した土砂を利用して果樹園が作られている。 | 4. シラス台地と呼ばれ、水はけが良い性質を利用して茶やサツマイモなどの畑作が行われている。 |
|--|--|---|--|
- 問2 沖縄県の産業構造において、製造業などの第二次産業の割合が低く、サービス業や小売業などの第三次産業の割合が突出して高い理由として、適切なものを選択してください。（2019年 愛媛県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 広大な平野を利用した機械化農業が推進され、農産物の加工から販売までを行う第六次産業が製造業に代わっているため。 | 2. 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。 | 3. 県外からの輸送コストが高いため、原材料を輸入して製品を輸出する加工貿易型の工業が全く発達しなかったため。 | 4. 政令指定都市を中心とした都市圏が形成され、情報通信技術（ICT）関連の製造工場がすべて県外に移転したため。 |
|--|--|---|--|
- 問3 1970年代の大分県において、県内での雇用を増加させ、大都市圏への人口流出を抑える要因となった政府による都市開発の指定制度を何といいますか。（2020年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------|-----------|----------|-----------|
| 1. 高度経済成長拠点 | 2. 情報公開特区 | 3. 新産業都市 | 4. 学術研究都市 |
|-------------|-----------|----------|-----------|
- 問4 宮崎県において、農業産出額に占める畜産の割合が他の都道府県と比較して際立って高い理由として、自然環境や土地利用の背景をふまえた説明として最も適切なものはどれですか。（2018年 岩手県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 冬の寒さが厳しく、ビニールハウスを利用した施設園芸農業よりも、室内で行う畜産業の方が効率が良いため。 | 2. 広大なシラス台地が広がり水田稲作に適さない土地が多いため、広大な土地を利用した家畜の飼育が行われてきた。 | 3. 大消費地である東京圏に隣接しており、鮮度が重要な生乳や精肉を短時間で出荷できる有利な立地条件にあるため。 | 4. 年間を通して降水量が極めて少なく乾燥しているため、農作物の栽培よりも家畜の管理に適している。 |
|---|---|---|---|
- 問5 九州地方南部のシラス台地において、古くから水田稲作ではなく、サツマイモなどの畑作や畜産業が盛んに行われてきた理由として、土壌の性質から説明したものとして適切なものはどれですか。（2020年 静岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を阻害する性質を持っているため。 | 2. 地盤が非常に軟弱であり、重い農機具を利用した大規模な耕作に適さなかったため。 | 3. 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。 | 4. 標高が高く気温が低いため、熱帯性の作物である稲の栽培が困難だったため。 |
|--|---|---|--|
- 問6 宮崎県などの温暖な地域で見られる、ビニールハウスや温室などの施設を利用して、本来の時期よりも野菜の栽培時期を早める工夫を何といいますか。（2017年 埼玉県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 近郊農業 | 2. 抑制栽培 | 3. 促成栽培 | 4. 露地栽培 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問7 鹿児島県の桜島周辺における降灰被害について、冬の2月には降灰が主に火口の南東方向（海側）へ広がるのに対し、夏の8月には火口の北西方向（鹿児島市街地側）へと広がることが統計的に示されています。このように、時期によって降灰の範囲が変化する要因として最も適切な説明はどれですか。（2020年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|--|--------------------------------------|
| 1. 日本付近の上空を流れる偏西風が、季節によって完全に消滅するため | 2. 季節風の影響により、季節ごとに卓越する風の向きが変化するため | 3. 本州の農家に比べて土地代が圧倒的に安いので、大規模な農地で生産を行うことで、輸送費の差を考慮しても十分な利益が出る仕組みになっている。 | 4. 周辺を流れる日本海流（黒潮）が、季節によって流路を大きく変えるため |
|------------------------------------|-----------------------------------|--|--------------------------------------|
- 問8 2022年の東京都中央卸売市場における菊の出荷状況において、3月の総出荷量は約3000万本で、そのうち沖縄県産は約1200万本と4割近くを占めています。一方、9月の総出荷量は同程度ですが、沖縄県産はわずか3万本にとどまっています。このように、沖縄県が冬から春にかけての出荷に特化している理由として、経済的な背景をふまえて説明したものを選びなさい。（2024年 広島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 冬の温暖な気候を利用して暖房費などの生産費を抑えることで、遠方の消費地に運ぶための高い輸送費を補い収益を上げている。 | 2. 夏の台風被害を避けるために冬の栽培に特化しており、余った労働力を夏場はサトウキビ収穫に集中させることで生産費を下けている。 | 3. 本州の農家に比べて土地代が圧倒的に安いので、大規模な農地で生産を行うことで、輸送費の差を考慮しても十分な利益が出る仕組みになっている。 | 4. 冬場は航空運賃が安くなるため、その時期に合わせて集中的に出荷を行うことで、生産費と輸送費の合計を最小限に抑えている。 |
|---|--|--|---|
- 問9 九州地方の阿蘇山などで見られる、火山の噴火によって地下のマグマが噴出した後、山頂部が陥没するなどして形成された大規模な凹地を何といいますか。（2019年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|---------|---------|----------|
| 1. リアス海岸 | 2. 楯状火山 | 3. カルデラ | 4. シラス台地 |
|----------|---------|---------|----------|
- 問10 九州地方南部に位置し、薩摩半島側の沿岸部に石油備蓄基地が立地している県について、その交通環境や都市整備に関する記述として最も適切なものを選択してください。（2020年 東京都公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 県庁所在地では路面電車の軌道を乏生化する環境整備が行われ、バス路線と都心の結びつきも強い。 | 2. 石油備蓄基地のある西側の半島には鉄道が一切通っておらず、主要な交通手段は船舶のみに限られている。 | 3. 2004年に九州新幹線が開通したが、県庁所在地周辺にシラス台地は存在せず、すべて平坦な低地に住宅地が広がっている。 | 4. 県庁所在地では地下鉄網が発達しており、路面電車はすべて廃止され、バスの利用も極めて少ない。 |
|--|---|--|--|
- 問11 鹿児島県の大隅半島付近に広く分布する、火山活動による噴出物が積み重なってできた台地について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 宮城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 川の流れによって運ばれた土砂が河口付近に堆積してできた、平坦で低く湿った土地である。 | 2. 山地が沈降してできた複雑な海岸線を持ち、真珠やカキの養殖が盛んに行われている。 | 3. 火山の噴火によって形成された大規模なくぼ地であり、その内部は広大な水田地帯となっている。 | 4. 灰白色の土に覆われており、水はけがよいので畑作や畜産が盛んに行われている。 |
|---|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 シラス台地と呼ばれ、水はけが良い性質を利用して茶やサツマイモなどの畑作が行われている。	鹿児島県に広がるシラス台地は火山灰などの堆積物で構成されており、水が地下に浸透しやすい性質を持っています。水田稲作には適さないこの土地の特性を活かし、乾燥に比較強い茶やサツマイモなどの栽培が広まりました。特に茶の栽培においては、広大で平坦な台地の特性を活かした機械化が進んでおり、全国有数の生産量を支えています。
問2	答え 2 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。	沖縄県は、その温暖な気候や青い海、琉球王国時代からの独自の伝統文化といった観光資源を最大限に活用しています。ホテル業、飲食業、交通機関などの観光に関連するサービス業（第三次産業）が雇用の受け皿となっているため、就業者割合が極めて高くなっています。これに対し、本州のような大規模な重化学工業の集積が少ないため、相対的に第二次産業の割合が低くなっています。
問3	答え 3 新産業都市	政府は地方への工業分散を図り、過密・過疎問題を解決するために「新産業都市建設促進法」を制定しました。大分県（大分地区）はこの「新産業都市」の指定を受けたことで工業化が進み、県内での雇用機会が創出されました。この結果、高度経済成長の終わりとともに大都市への人口流出が減少し、地方における人口還流が促進されました。
問4	答え 2 広大なシラス台地が広がり水田稲作に適さない土地が多いため、広域な土地を利用した家畜の飼育が行われてきた。	宮崎県を含む南九州には、火山の噴出物が堆積してできた「シラス台地」が広く分布しています。この土地は水持ちが悪く、かつては大規模な水田稲作には不向きであったため、水に頼りすぎない畑作や畜産業が中心となって発展しました。現在ではこの地理的条件を背景に、肉用牛や豚、鶏などの飼育頭数で全国トップクラスを誇る有数の畜産地帯となっています。東京圏への出荷については、距離が離れているため、フェリーやトラック輸送を活用した広域流通が工夫されています。
問5	答え 3 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。	シラス台地を構成する火砕流堆積物は粒が粗く、隙間が多いため、雨が降ってもすぐに地下へ浸透してしまう「水はけが良すぎる」という性質があります。そのため、常に水を張る必要がある水田には不向きであり、乾燥に強いサツマイモや、広大な土地を利用した豚・鶏・牛などの畜産業が発展しました。
問6	答え 3 促成栽培	宮崎県や高知県などの冬でも温暖な地域では、その気候とビニールハウスなどの設備を組み合わせた施設園芸農業が盛んです。これによって野菜の成長を早めて出荷時期をずらす方法は促成栽培と呼ばれます。主にきゅうり、ピーマン、なすなどの夏野菜が、他の地域での生産が少ない冬から春にかけて出荷されます。
問7	答え 2 季節風の影響により、季節ごとに卓越する風の向きが変化するため	日本付近では、季節によって吹く方向が変わる「季節風」の影響を強く受けます。一般的に、冬は北西から、夏は南東からの風が吹くため、火口から見て北西方向に位置する鹿児島市街地では、特に夏場に降灰の影響を受けやすくなるという地理的な特徴があります。一方、冬は北西からの風によって火山灰が南東側の海へと流されるため、市街地への影響は夏に比べて限定的になります。
問8	答え 1 冬の温暖な気候を利用して暖房費などの生産費を抑えることで、遠方の消費地へ運ぶための高い輸送費を補い収益を上げている。	沖縄県は東京などの大消費地から遠いため、出荷の際の輸送費が他県よりも高くなるという不利な点があります。しかし、冬でも温暖な気候を活かせば、ビニールハウスを温めるための燃料代（生産費）を大幅に節約できます。この「節約できた生産費」によって「高い輸送費」を相殺し、他地域との競争力を保っています。9月の出荷が少ないのは、他地域でも暖房なしで生産が可能になり、沖縄の優位性がなくなるためです。
問9	答え 3 カルデラ	阿蘇山に代表されるこの地形は、大規模な噴火の際に噴火口周辺が陥没することで生まれます。阿蘇山のカルデラは世界最大級の規模を誇り、その内部には多くの人々が住み、鉄道や国道も通っています。シラス台地は火山灰が堆積してできた地形であり、リアス海岸は沈水海岸の一種であるため、形成過程が異なります。
問10	答え 1 県庁所在地では路面電車の軌道を芝生化する環境整備が行われ、バス路線と都心の結びつきも強い。	鹿児島県では、ヒートアイランド現象の緩和や景観向上を目的として、路面電車の軌道敷を芝生で緑化する事業が行われています。また、県庁所在地である鹿児島市周辺には火山噴出物が堆積してできたシラス台地が広がり、そこを切り開いて大規模な住宅地が造成されてきました。2004年の九州新幹線の新八代ー鹿児島中央間の先行開業以降、交通の利便性が大きく向上しています。
問11	答え 4 灰白色の土に覆われており、水はけがよいため畑作や畜産が盛んに行われている。	九州南部に広がるシラス台地は、火山活動の噴出物である灰白色の「シラス」という土の層で構成されています。この土壌は非常に水はけがよく、水を溜めることが難しいため、水田稲作よりもサツマイモや茶などの畑作、あるいは肉用牛や豚などの畜産業が発展しました。